

社会理論の探求：現代市民のための社会科学史研究

2010年 庄司 興吉

序 社会理論とはなにか？

第一部 総合の精神（19世紀、イギリス、ドイツ、フランス）

- I 哲学的総合と社会理論
(Smith, A. 1723-1790, Hegel, G. W. F. 1770-1831)
- II 総合社会学の形成
(Saint-Simon, H. de 1760-1825, Comte, A. 1798-1857)
- III 経済学批判の社会理論
(Marx, K. H. 1818-1883)
- IV 社会進化論と個人主義
(Spencer, H. 1820-1903)
- V 弁証法的・史的唯物論
(Engels, F. 1820-1895)

第二部 科学と意志（19～20世紀、フランス、イギリス、ドイツ、アメリカ）

- VI 科学としての社会学
(Durkheim, É. 1858-1917)
- VII 実証主義と社会主義
(Webb, S. J. 1859-1947, et al.)
- VIII 社会学と意志の問題
(Tönnies, F. 1855-1936, Simmel, G. 1856-1918, et al.)
- IX 社会民主主義の社会理論
(Bernstein, E. 1850-1932, Kautsky, K. J. 1854-1938, Luxemburg, R. 1871-1919, et al.)
- X 合理化と変革主体の理論
(Weber, M. 1864-1920)
- XI 個人主義的自由主義と社会心理学
(Ward, L. F. 1841-1913, Park, R. E. 1864-1944, Mead, G. H. 1863-1931, et al.)

第三部 主意主義の功罪（20世紀、ロシアソ連、ヨーロッパ、アジア、アメリカ）

XII 政治主義とマルクス主義社会学

(Plekhanov, G. V. 1856-1918, Lenin, V. I. 1870-1924, Bukharin, N. I. 1888-1938 et al.)

XIII 精神分析とマルクス主義の革新

(Freud, S. 1856-1939, Reich, W. 1897-1957, Frankfurter Schule)

XIV 現代社会批判から社会計画論へ

(Keynes, J. M. 1883-1946, Lukács, Gy. 1885-1971, Gramsci, A. 1891-1937, Mannheim, K. 1893-1947)

XV 資本主義分析と主体性の問題（日本のマルクス主義と近代主義）

XVI 社会主義と民族解放運動の社会理論

(孫文 1866-1925, Stalin, I. V. 1879-1953, 毛沢東 1893-1976, Sotsiologia v SSSR, 現代化中国的社会学)

XVII 行為と社会体系の一般理論

(Parsons, T. 1902-1979, Merton, R. K. 1910-2003, et al.)

第四部 構造と主体

（20～21世紀、アメリカ、先進資本主義諸国、第三世界、日本、世界）

XVIII 批判的・急進的社会科学運動

(Radical Social Science Movement, Kritische Soziologie, Habermas, J. 1929-, et al.)

XIX 生成する社会とシステムの内閉

(Phänomenologie, New System Theory, Schutz, A. 1899-1959, Luhmann, N. 1927-1998, et al.)

XX 普遍的構造から普遍的流動へ

(Structuralisme, Post-Structuralisme, Arthusser, L. 1918-1990, Foucault, M. 1926-1984, Deleuze, G. 1925-1995, Guattari, F. 1930-1992, et al.)

XXI 周縁からの批判による脱構築

(Peace Studies, World System Theory, Environmental Sociology, Feminist and Cultural Studies, Post-colonialist Trends)

XXII 平和・根源と先導性の社会理論

(高度成長後日本の社会理論)

XXIII 大自然主義と梵我一如の社会理論へ

(世界社会変動とヘゲモニー移動)

序 社会理論とはなにか？

社会観をくり返し脱構築して得られるもの

人は無意識のうちにも社会観をもっている。

教えられたもの、自分で得たもの、それらのものの合成。

人は社会観をもたずには生きていけない。

シンボルを操る動物 *animal symbolicum* であるから。

しかし、無意識のうちには身に着けてきたものは多くの誤りを含んでいる。

したがって、くり返し反省し、解体し、再構成していく、つまり脱構築していくことが必要。

そのようにして得られるのが社会理論。

その社会理論もまた、くり返し脱構築していかなければならないが。

社会理論史の重要性

脱構築の手掛かりとして、これまでの社会理論をできるだけ多く知っておくことが重要。

広義の社会学を中心とした社会理論の歴史。

社会学の社会理論はもっとも基礎的で、哲学と社会諸科学とを媒介するような性格をもっているため。

この意味での社会科学は、自然科学のように通常科学 *normal science* となりにくいため、とくに歴史的整理が重要。

市民のための社会理論

脱構築のためには、他方で、何のための、あるいは誰のための、社会理論かを明らかにしておくことも重要。

市民の立場からの現代社会把握のための社会理論。

自分が生きている社会のあり方・行き方を自ら決めていくのが市民。

そのために、自分が生きている社会の動的な構造を、そのなかでの自分の位置を確かめつつとらえなくてはならない。

総体社会把握（社会の総体把握） *societal comprehension*。

総体把握ができるような社会理論を創出するための社会理論史の検討。

総体把握の概要

共同体と階級社会：社会科学の根本テーマ。

社会システム：20世紀社会科学の共通課題。

社会・生態システム：これからの社会科学の課題。

主体そのものの視座、方法、理論などを含む形で把握する。

そのために、ふまえておかなければならない問題。

社会理論史を整理するためのガイドライン

1) 近代から現代へ：西欧から世界へ。

2) 社会学と社会研究：背後に産業主義と社会主義。

3) 実証主義と弁証法：西洋の2つの代表的な知の形態。

4) 限界の見えてきた西洋的な理性の立場を越えるために、非西洋的な生活世界とそれを表現してきた思想を大切にする。

5) 形相（情報）と質料（資源および物的エネルギー）とのアンバランス：北／西洋／「先進」の形相過多にたいして、南／非西洋／開発途上での質料横溢。語られてきていな

い膨大なことを大切にする。

文献

庄司興吉, 1977, 『現代化と現代社会の理論』東京大学出版会、とくに第一部
庄司興吉, 1989, 『社会発展への視座』東京大学出版会、とくにⅠ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵ章
庄司興吉, 1975, 『現代日本社会科学史序説』法政大学出版局、とくにⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ章
庄司興吉, 2002, 『日本社会学の挑戦：〈変革〉を読み解く研究と文献』有斐閣

新明正道, 1977, 『社会学史概説』岩波書店（初版, 1954）
阿閉吉男・内藤莞爾編, 1957, 『社会学史概論』勁草書房
佐久間孝正編著, 1990, 『現代の社会学史』創風社
山岸健・船津衛編著, 1993, 『社会学史の展開』北樹出版

Kuhn, T. S., 1962, *The Structure of Scientific Revolution*, 2nd ed. 1970, （中山茂訳, 1971, 『科学革命の構造』みすず書房）

Lichtheim, G., 1970, *A Short History of Socialism*, Praeger （庄司興吉訳, 1979, 『社会主義小史』みすず書房）

城塚 登, 1960, 『近代社会思想史』東京大学出版会
高島善成・水田洋・平田清明, 1962, 『社会思想史概論』岩波書店
河村 望, 1973-75, 『日本社会学史研究』上下、人間の科学社
秋元律郎, 1979, 『日本社会学史：形成過程と思想構造』早大出版部
矢澤修次郎, 1984, 『現代アメリカ社会学史研究』東京大学出版会
船津衛, 1999, 『アメリカ社会学の展開』恒星社厚生閣

Martindale, D., 1960, *The Nature and Types of Sociological Theory*, Houghton Mifflin.
（新睦人他訳, 1970-71, 『現代社会学の系譜：社会学理論の性格と諸類型』上下、未来社）
Bottomore, T., Nisbet, R., eds., 1978, *A History of Sociological Analysis*, Basic Books.
（高橋三郎・井上俊監修, 1981-, 『社会学的分析の歴史』アカデミア出版会、1 『社会学の成立①十八世紀における社会学思想』、5 『ウェーバーとドイツ社会学』、6 『デュルケムの社会学』、8 『アメリカ社会学の形成』、9 『機能主義』、14 『社会学における構造主義』、15 『社会階層論』、16 『権力と権威』）

Habermas, J., 1981, *Theorie des kommunikativen Handelns*, 2 Bde., Suhrkamp. （河上倫逸他訳, 1985-87, 『コミュニケーション的行為の理論』全3巻、未来社）

第一部 総合の精神

社会学あるいは社会研究は、17～18世紀にヨーロッパに現れ、19～20世紀をつうじて世界に広がった新しい社会を、それまでに現れていた諸科学を総合し、それをつうじて生み出される新しい科学によってとらえようとする精神、すなわち総合の精神によって始動させられる。

I 哲学的総合と社会理論：ヘーゲルを中心に

1 フランス革命の衝撃

近代社会理論／社会学の発端

ヘーゲル：カント以来のドイツ観念論哲学の集約

スミスらの市民社会論との総合

2 精神現象学からエンチクロペディーへ

問題意識と体系

ドイツ・プロテスタンティズム世俗化の極

世界精神としての神と人間

3 エンチクロペディー＝哲学的総合

論理学：精神に内在する発展の論理

自然哲学：精神が自らを外化し、自然を組織していく

精神哲学：自らに帰った精神の自己実現の道

4 精神哲学：社会理論への道

主観的（個人的）精神：心理学

客観的（社会的）精神：倫理学

絶対的精神：芸術、啓示宗教、哲学

5 倫理学＝社会理論

法、道徳、人倫態

家族、市民社会、国家

国内法、对外法、世界歴史

6 功績と限界

形而上学の内部で諸学を総合し、社会科学の基礎を築く。

しかし、現実の国家に安易に依存。

フランス革命の余波のなかで問い直される運命に。

文献

Bacon, F., 1620, *Novum Organum*, 1911, Collier. (桂寿一訳, 1978, 『ノヴム・オルガノム』 岩波書店)

Descartes, R., 1637, *Discours de la méthode*. (落合太郎訳, 1953, 『方法序説』 岩波文庫)

Descartes, R., 1641, *Meditationes de prima philosophia, in qua Dei existentia et animae immortalitas demonstratur*. (三木清訳, 1949, 『省察』 岩波文庫)

Descartes, R., 1644, *Principorum philosophiae, pars prima et pars secunda*. (桂壽一訳, 1964, 『哲学原理』岩波文庫)

Hobbes, T., 1651, *Leviathan, or The Matter, Forme, & Power of a Common-Wealth Ecclesiastical and Civill*. (水田洋訳, 1954-88, 『リヴァイアサン』I-IV, 岩波文庫)

Locke, J., 1690, *Two Treatises of Government*. (鶴飼信成訳, 1968, 『市民政府論』岩波文庫)

Rousseau, J. J., 1754, *Discours sur L'origine et les fondements de l'égalité parmi les hommes*. (本田喜代治・平岡昇訳, 1933, 『人間不平等起源論』岩波書店、改版 1957)。

Rousseau, J. J., 1762, *Du contrat social; ou principes du droit politique*. (桑原武夫・前川貞次郎訳, 1954, 『社会契約論』岩波書店)。

Smith, A., 1759, *Theory of Moral Sentiments*, New ed. 1853, London: Henry G. Bohn. (水田洋訳, 1973, 『道徳感情論』筑摩書房)

Smith, A., 1776, *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*, New ed., 1822, London. (大内兵衛・松川七郎訳, 1959-66, 『諸国民の富』岩波文庫 1969 単行本、水田洋訳 1964 『国富論』河出書房)

Ferguson, A., 1767, *An Essay on the History of Civil society*, (大道安次郎訳 1948 『市民社会史』白日書院、改版：河出文庫, 1954)

Ferguson, A., 1792, *Principles of Moral and Political Science*, 2 vols.

Kant, I., 1781, *Kritik der reinen Vernunft*, 1787, 2. Aufl. (篠田秀雄訳, 1961-62, 『純粋理性批判』岩波文庫)

Kant, I., 1788, *Kritik der praktischen Vernunft*. (波多野精一・宮本和吉訳, 1959, 『実践理性批判』岩波文庫)

Kant, I., 1790, *Kritik der Urteilkraft*. (篠田秀雄訳, 1964, 『判断力批判』岩波文庫)

Hegel, G. W. F., 1807, *Phänomenologie des Geistes* (金子武蔵訳, 1952, 『精神の現象学』ヘーゲル全集IV～V、岩波書店、長谷川宏訳, 1998, 『精神現象学』作品社)

Hegel, G. W. F., 1809-11, *Philosophische Propädeutik* (武市健人訳, 1952, 『哲学入門』岩波文庫)

Hegel, G. W. F., 1812, *Wissenschaft der Logik* (武市健人訳, 1952, 『大論理学』岩波書店)

Hegel, G. W. F., 1817, 1827, 1830, *Encyclopädie der philosophischen Wissenschaften in Grundrisse*, 1er Teil Die Logik, Wissenschaft der Logik, 2er Teil Naturphilosophie, Wissenschaft der Natur, 3er Teil Philosophie des Geistes, Wissenschaft des Geistes, (樫山欽四郎・川原栄峰・塩屋竹男訳, 1987, 『エンチクロペディー』河出書房)

Hegel, G. W. F., 1821, *Grundlinien der Philosophie des Rechts*, 1970, Suhrkamp (藤野渉・赤沢正敏訳, 1978, 「法の哲学」『世界の名著 44 ヘーゲル』中央公論社)

Hegel, G. W. F., 1837, *Vorlesungen über die Philosophie der Geschichte*, Reclam, 1924 (武市健人訳, 1971, 『歴史哲学』岩波文庫)

Hegel, G. W. F., 1837, *Vorlesungen über die Ästhetik*, Suhrkamp (長谷川宏訳, 1995-96, 『美学講義』作品社)

Hegel, G. W. F., 1837, *Vorlesungen über die Philosophie der Religion*, Suhrkamp (木場深定訳, 1995, 『宗教哲学』岩波書店)

Hegel, G. W. F., 1837, *Vorlesungen über die Geschichte der Philosophie*, Suhrkamp (長谷川宏訳, 1992-93, 『哲学史講義』河出書房新社)

II 総合社会学の形成：オーギュスト・コントを中心に

1 フランス革命後の課題

旧体制を破壊したあとに、社会をどのように再建するか？

先輩としてのコンドルセー

サン＝シモンとシスモンディ

2 科学主義と産業主義

サン＝シモンの思想

産業者、物理学主義、社会生理学

サン＝シモンとコント

3 三状態の法則

人間精神発展の法則

神学（拝物教→多神教→一神教）→形而上学→実証科学

歴史的背景――ヘーゲルとの比較

4 諸科学のイエラルシー

数学、天文学、物理学、化学、生物学

社会学（という名称）の創出

社会学の役割――歴史的方法

5 社会静学と社会動学

秩序と進歩

人間観、家族から産業社会へ、分業と専門化による協力の原理

軍事的社会→立法的（法律的）社会→産業的社会

6 人類教の創設へ

実証哲学のジレンマ

個人的経験から主観的総合へ

功績と限界：産業社会行き詰まりの予感？

文献

Condorcet, A. N, 1795, *Esquisse d'un tableau historique des progrès de l'esprit humain*. (前川貞次郎訳, 1949, 『人間精神進歩の歴史』 角川文庫, 1966)

Saint-Simon, H. de, 1823-24, *Cathéchisme politique des industriels*. (高木暢哉訳, 1948, 『産業者の教理問答』 日本評論社・世界古典文庫)

Saint-Simon, H. de, 1825, *Neuveau christianisme*

Sismondi, J. Ch., 1819, *Nouveaux principes d'économie politique*, 2 vols., 2e éd. 1827.
(菅間正朔訳, 1949-50, 『経済学新原理』日本評論社、世界古典文庫)。

Comte, A., 1822, *Plan des travaux scientifiques nécessaires pour réorganiser la société*. (霧生和夫訳, 1970, 「社会再組織に必要な科学的作業のプラン」『世界の名著 36 コント・スペンサー』中央公論社)

Comte, A., 1830-42, *Cours de philosophie positive*, 6 tomes. (石川三四郎訳, 1928-31, 『実証哲学』春秋社、Emile Rigolage による抜粋の訳、霧生和夫訳, 1970, 「社会静学と社会動学」『世界の名著 36 コント・スペンサー』中央公論社、第50-51講)

Comte, A., 1844, *Discours sur l'esprit positif*. (霧生和夫訳, 1970, 「実証精神論」『世界の名著 36 コント・スペンサー』中央公論社)

Comte, A., 1851-54, *Système de politique positive, ou Traité de sociologie, instituant la religion de l'humanité*, 4 tomes.

Comte, A., 1852, *Catéchisme positiviste*.

Comte, A., 1856, *Synthèse subjective*, tome I.

Quételet, L. A. J., 1835, *Sur l'homme et le développement de ses facultés, ou physique sociale*. (高野岩三郎校閲：平貞蔵・山村隆司訳, 1939-40, 『人間について』上下、岩波文庫)

Gall, F. J., et G. Spurzheim, 1810, *Anatomie et Physiologie du système nerveux en general, et du cerveau en particulier, avec des Observations sur la possibilité de reconnaître Plusieurs Dispositions intellectuelles et Morales de l'Homme et des Animaux, par la configuration de leurs Têtes* / par v. 1 - Atlas. F. Schoell.

清水幾太郎, 1978, 『オーギュスト・コント』岩波書店

村井久二, 2001, 『コントとマルクス：「コント＝マルクス型発展モデル」の意義と限界』日本評論社。

III 経済学批判の社会理論：マルクスを中心に

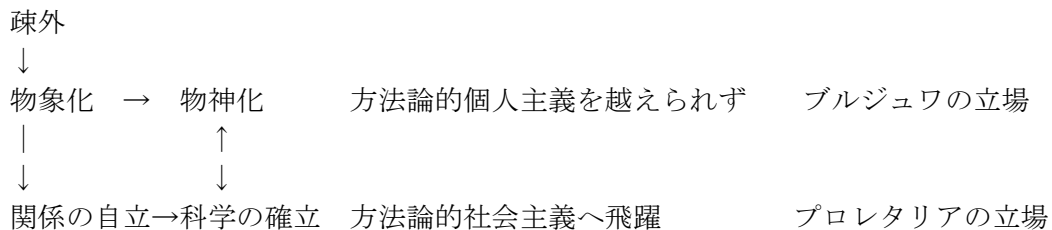
1 ヘーゲル批判と人間主義

経済学批判の社会理論：社会学との類似と相違
フォイエルバッハの影響：人間主義と弁証法
キェルケゴールとの対比：実存主義とマルクス主義

2 疎外論から物象化論へ

『経哲草稿』の疎外論：生産物からの疎外、労働からの疎外、類からの疎外、人間疎外
初心としての個体的所有：とくに私的所有との違い

『ドイツ・イデオロギー』での飛躍



3 社会形成の歴史理論

『経済学批判要綱』と『経済学批判』

唯物史観の定式：生産力と生産関係、土台と上部構造、社会的意識形態、など
社会構造論・社会変動論・歴史理論：アジア的、古代的、封建的、近代ブルジョワ的

4 近代市民社会の解剖学(1) 価値の理論

産業社会と市民社会：サン＝シモン、コントとヘーゲル、マルクスを分岐させたもの
使用価値と交換価値：単なる経済的価値でなく、〈自然－人間－社会〉関係の媒体
交換、貨幣、転倒＝関係の自立、労働力の商品化

$$\begin{array}{c} P_m \\ G - W \quad \cdots P \cdots W' - G' \\ A \end{array}$$

5 近代市民社会の解剖学(2) 再生産と恐慌の理論

第一部門と第二部門：使用価値視点から見た経済・社会関係→社会の共同的基盤
不変資本、可変資本、剰余価値：価値視点から見た契約と搾取の二重構造→階級構造へ
再生産の条件と恐慌：単純再生産 ($Ic=Ic, Iv+Im=IIc, IIv+IIIm=IIv+IIIm$) から無限に複雑化する拡大再生産へ。全体を見渡し、調整するものはいない。←夜警国家

6 社会主義と政治理論

運動としての社会主義：先駆者の運動から資本主義そのものの運動へ
批判的創造：パリ・コミューンの教訓

残された課題：政治理論、社会理論、文化理論

文献

Marx, K., 1843-44, *Zur Kritik der Hegelschen Rechtsphilosophie, Einleitung*, MEW 1, Dietz, 1956 (花田圭介訳, 1959, 「ヘーゲル法哲学批判 序説」『マルクス・エンゲルス全集』1、大月書店)

Marx, K., 1844, *Ökonomische-philosophische Manuskripte aus dem Jahre 1844*, MEW, Ergänzungsband 1, Dietz, 1968 (城塚登・田中吉六訳, 1964, 『経済学・哲学草稿』岩波文庫、真下信一訳, 1975, 「1844年の経済学・哲学手稿」『マルクス・エンゲルス全集』40、大月書店)

Marx, K., 1845, *Die heilige Familie oder Kritik der kritischen Kritik, gegen Bruno Bauer und Kantsorten*, MEW 2, Dietz, 1957 (石堂清倫訳, 1960, 「聖家族、別名批判的批判の批判ーブルーノ・バウアーとその伴侶を駁す」『マルクス・エンゲルス全集』2、大月書店)

Marx, K., Engels, F., 1845-46, *Die deutsche Ideologie*, MEW 3, Dietz, 1958 (古在由重訳, 1956, 『ドイツ・イデオロギー』岩波文庫 部分訳, 真下信一・藤野渉・竹内良知訳, 1963, 「ドイツ・イデオロギー」『マルクス・エンゲルス全集』3、大月書店、花崎皋平訳, 1966, 『新版ドイツ・イデオロギー』合同出版、廣松渉編, 1974, 『ドイツ・イデオロギー (手稿復元、新編輯版)』河出書房新社)

Marx, K., Engels, F., 1848, *Manifest der kommunistischen Partei*, MEW 4, Dietz, 1959 (大内兵衛・向坂逸郎訳, 1951, 『共産党宣言』岩波文庫, 村田陽一訳, 1960, 「共産党宣言」『マルクス・エンゲルス全集』4、大月書店)

Marx, K., 1850-1859, *Grundrisse der Kritik der politischen Ökonomie (Rohentwurf)*, 1857-1858, Anhang 1850-1859, Dietz, 1953 (高木幸二郎監訳, 1959-65, 『経済学批判要綱』大月書店)

Marx, K., 1859, *Zur Kritik der politischen Ökonomie*, MEW 13, Dietz, 1961 (武田隆夫他訳, 1956, 『経済学批判』岩波文庫, 杉本俊朗訳, 1964, 「経済学批判」『マルクス・エンゲルス全集』13、大月書店)

Marx, K., 1867-1894, *Das Kapital*, Bd.1.1867, Bd.2.1885, Bd.3.1894, MEW 23-25, Dietz, 1962-64, (向坂逸郎訳, 1967, 『資本論』3巻4冊、岩波書店、岡崎次郎・杉本俊朗訳, 1965-67, 「資本論」『マルクス・エンゲルス全集』23a, 23b, 24, 25a, 25b、大月書店)

広松渉, 1968, 『エンゲルス論』盛田書店

広松渉, 1985, 『増補 マルクス主義の成立過程』至誠堂 (選書)

細谷昂, 1979, 『マルクス社会理論の研究』東京大学出版会

望月清司, 1973, 『マルクス歴史理論の研究』岩波書店

山之内靖, 1969, 『マルクス・エンゲルスの世界史像』未来社

Löwith, K., 1932, Max Weber und Karl Marx, *Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik*, 67 (柴田治三郎他訳, 1966, 『ウェバーとマルクス』未来社)

Löwith, K., 1941, *Von Hegel zu Nietzsche*, Zürich (柴田治三郎訳, 1952-53, 『ヘーゲルからニーチェへ』I-II、岩波書店)

Marcuse, H., 1954, *Reason and Revolution*, Humanities Press (梶田啓三郎他訳, 1961, 『理性と革命』岩波書店, Marcuse, H., 1962, 1972, *Vernunft und Revolution*, Luchterland)

Turner, B.S., 1979, *Marx and the End of Orientalism (Controversies in Sociology: No 6)*, G. Allen & Unwin (樋口辰雄訳, 1983, 『イスラム社会学とマルキシズム：オリエンタリズムの終焉』第三書館)

IV 社会進化論と個人主義：スペンサーを中心に

1 産業革命後の課題

経済学の分化：マルサスとリカード
功利主義の革新性と限界：ベンサムからミルへ
スペンサー：苦学して社会思想家に

2 最初の著書『社会静学』

功利主義の批判
道徳原理（第一原理）：平等自由の法則
日本の自由民権運動への影響

3 総合哲学体系へ

第一原理、生物学、心理学、社会学、倫理学
スペンサーの総合哲学大系は、5学10巻からなる。
I 第一原理(Spencer, 1862)
II～III 生物学原理(Spencer, 1864-67)
IV～V 心理学原理(Spencer, 1855)
VI～VIII 社会学原理(Spencer, 1876-96)
IX～X 倫理学原理(spencer, 1979-93)
進化論との関係：ラマルクからダーウィンへ
コントとの比較：心理学の位置、最初から道徳への志向

4 社会進化論の形成

『第一原理』から『社会学原理』へ
進化の法則 the Law of Evolution
超有機体とその進化：社会成長、社会構造、社会機能
社会学の素材(the data of sociology)は超有機体の進化(super-organic evolution)である。
社会は有機体である(Society is an Organism)
制度の分化：社会の進化

5 産業社会の特質と将来展望

軍事型社会から産業型社会へ
結合自由労働と結合資本との競争と協力
社会主義：軍事型社会の体制
「ここからして社会主義の理論と実践は、軍事型社会では普通のものであるが、社会がその型として産業優位になるやいなや、普通であることを止める(Hence the socialist theory and practice are normal in the militant type of society, and cease to be normal as fast as the society becomes predominantly industrial in its type. p.567)」
近未来 The Near Future
(ドイツについて)「社会主義体制はたんに、官僚体制のもう一つの形態にすぎない(For

the socialistic régime is simply, another form of the bureaucratic régime. p.585)」

6 社会的影響と学問的遺産

個人主義的社会進化論の役割

個人主義を厳密に方法化しえなかった限界

構造機能主義への関係

パーソンズの批判。「スペンサーは死んだ(Spencer is dead.)」

文献

Malthus, T. R., 1798, *An Essay on the Principle of Population*, 2. ed. 1803, 3. ed. 1806, 4. ed. 1807, 5. ed. 1817, 6. ed. 1826 (高野岩三郎・大内兵衛訳, 1935, 『初版・人口の原理』岩波文庫、改版 1961)

Ricardo, D., 1817, *On the Principles of Political Economy and Taxation*, 2nd ed., 1819, 3rd ed. 1821 (小泉信三訳, 1952, 『経済学及び課税の原理』岩波文庫、堀経夫訳, 1972, 『経済学および課税の原理』雄松堂書店)

Mill, J. S., 1843, *A System of Logic*. (大関将一訳, 1949-59, 『論理学大系』6冊、春秋社)

Mill, J. S., 1848, *Principles of Political Economy*, 2vol. (末永茂喜訳, 1959-63, 『経済学原理』岩波文庫)

Spencer, H., 1850, *Social Statics*, new ed., 1892, (松島剛訳, 1881, 『社会平権論』)

Spencer, H., 1855, *Principles of Psychology* (SSP vols. IV-V) 1st ed., 1855, 2nd ed., 2vols., 1870-72, 4th ed., 1899

Spencer, H., 1862, *First Principle* (SSP vol.1) 6th ed., 1900 (藤井宇平訳, 1898, 『総合哲学原理』, 沢田謙訳, 1923, 『第一原理』2巻、春秋社、『世界大思想全集』, 1927,)

Spencer, H., 1864-67, *Principles of Biology* (SSP vols. II-III), rev. & enl. ed. 1898-99.

Spencer, H., 1873, *The Study of Sociology*. (大石正己訳, 1883, 『社会学』)

Spencer, H., 1874, *Descriptive Sociology*.

Spencer, H., 1876-96, *Principles of Sociology* (SSP vols. VI-VIII) (乗竹孝太郎訳, 1882, 『社会学の原理』上下、第一巻の訳、経済雑誌社、浜野定四郎・渡辺治訳, 1884, 『政治哲学』第二巻の訳)

Spencer, H., 1879-93, *Principles of Ethics* (SSP vols. IX-X) (山口松五郎訳, 1883, 『道徳の原理』訂正版, 1885, 第一部の訳)

Spencer, H., 1884, *The Man versus the State*. (永井大満次訳, 1894, 『個人対国家』、鈴木栄太郎訳, 1923, 『個人対国家』社会学研究会)

Spencer, H., 1904, *Autobiography*, 2vols.

Spencer, H., 1911, *Essays on Education and Kindred Subjects*, Everyman's Library, J.M.Dent, London, 1963. (清水禮子訳, 1970, 「科学の起源」「進歩について」「知識の価値」『世界の名著 36 コント・スペンサー』中央公論社)

Spencer, H., *System of Synthetic Philosophy*, 10vols.

Lamarck, Antoine de, 1809, *Philosophie zoologique*. (小泉丹・山田夏彦訳, 1954, 『動物哲学』岩波文庫)

Darwin, Ch., 1859, *On the Origin of Species by means of natural selection*, Gramercy Books, 1979. (八杉竜一訳, 1963-71, 『種の起源』岩波文庫)

清水幾太郎, 1936, 『日本文化形態論』サイレン社。

V 弁証法的・史的唯物論：エンゲルスを中心に

1 初期のエンゲルス

『イギリスにおける労働者階級の状態』

マルクスとの関係：『ドイツ・イデオロギー』から『資本論』へ

マルクスの晩年以後：マルクスの残した課題を引き受ける

2 実証主義の普及への対応

デューリングの活躍：唯物論的実証主義

ヘーゲル弁証法の見直し

弁証法的唯物論へ：哲学、経済学、社会主義

3 史的唯物論の拡大

モルガンの古代社会論：野蛮、未開、文明

『家族、私有財産および国家の起源』

「こうして、婚姻には、人類発展の三つの主要段階に照応する、三つの主要な形態がある。野蛮時代には集団婚が、未開時代には対偶婚が、文明時代には姦通と売春で補足された一夫一婦制がある。」(Engels, 1884, S.76、訳、p.79)

「文明とは、分業と、分業から発生する個々人のあいだの交換と、この両者を総括する商品生産とが完全な展開をとげて、それ以前の全社会を変革するような、社会の発展段階である。」(Engels, 1984, S.168、訳、p.173)

史的唯物論形成の意味：マルクスの市民社会論を一般社会史に接続する

4 自然弁証法への試み

自然諸科学の見直し

史的唯物論を自然科学に接続する課題

統一科学としての弁証法的・史的唯物論

5 社会主義の啓蒙活動

『空想から科学へ』：社会主義の形成過程と科学的社會主義

『ルートヴィヒ・フォイエルバッハとドイツ古典哲学の終焉』

ドイツ社会民主党およびヨーロッパ社会主義への指導

6 弁証法と実証主義

1 9世紀的総合の到達点：総合の論理の比較

ヘーゲル：論理学→自然哲学→精神哲学

コント：三状態の法則→諸科学のイェラルシー→社会学→倫理学

マルクス：疎外論から物象化論へ→唯物史観の確立→土台と上部構造

スペンサー：第一原理→生物学→心理学→社会学→倫理学

エンゲルス：資本主義社会論→原始古代社会論→自然科学
→弁証法的史的唯物論 *dialektisch-historischer Materialismus*
弁証法の三義と俗流化の危険性
実証主義から実証科学へ

文献

Engels, F., 1845, *Die Lage der arbeitenden Klasse in England: Nach eigener Anschauung und authentischen Quellen*, *Marx-Engels Werke* 2, Dietz, 1957. (岡茂男訳, 1960, 「イギリスにおける労働者階級の状態」『マルクス・エンゲルス全集』2, 大月書店、一條和生・杉山忠平訳. 1990, 『イギリスにおける労働者階級の状態：19世紀のロンドンとマンチェスター』岩波文庫)

Engels, F., 1878, *Herrn Eugen Dührings Umwälzung der Wissenschaft*, *Marx-Engels Werke* 20, Dietz, 1962. (村田陽一訳, 1968, 「オイゲン・デューリング氏の科学の変革」『マルクス・エンゲルス全集』20, 大月書店)

Engels, F., 1880, *Die Entwicklung des Sozialismus von der Utopie zur Wissenschaft*, *Marx-Engels Werke* 19, Dietz, 1962. (寺沢恒信・村田陽一訳, 1968, 「空想から科学への社会主義の発展」『マルクス・エンゲルス全集』19, 大月書店、大内兵衛訳, 1946, 『空想より科学へ：社会主義の発展』岩波文庫、寺沢恒信・山本二三丸訳, 1953, 『空想から科学へ』国民文庫、大月書店)

Engels, F., 1884, *Der Ursprung der Familie, des Privateigentums und Staats*, *Marx-Engels Werke* 21, Dietz, 1962. (村田陽一訳, 1971, 「家族、私有財産および国家の起源」『マルクス・エンゲルス全集』21, 大月書店、戸原四郎訳, 1965, 『家族・私有財産・国家の起源』岩波文庫)

Engels, F., 1888, *Ludwig Feuerbach und der Ausgang der klassischen deutschen Philosophie*, *Marx-Engels Werke* 21, Dietz, 1962. (藤川覚訳, 1971, 「ルートヴィヒ・フォイエルバッハとドイツ古典哲学の終結」『マルクス・エンゲルス全集』21, 大月書店、松村一人訳, 1960, 『フォイエルバッハ論』岩波文庫)

Engels, F., 1927, *Dialektik und Natur*, *Marx-Engels Archiv*, Bd. II, hrsg.v. D. Rjazanov, 1927, *Marx-Engels Werke* 20, Dietz, 1962 (菅原仰訳, 1968, 「自然弁証法」『マルクス・エンゲルス全集』20, 大月書店、田辺振太郎訳, 1956-57, 『自然の弁証法』上下、岩波文庫)

Dühring, K. E., 1865, *Natürliche Dialektik*.

Dühring, K. E., 1865, *Der Wert des Lebens*, 8. Aufl, 1922.

Dühring, K. E., 1873, *Kursus der Natural-und-Sozialökonomie*.

Dühring, K. E., 1875, *Kursus der Philosophie*, 4. Aufl. *Wirklichkeitsphilosophie*, 1895.

Morgan, L. H., 1877, *Ancient Society: researches in the line of human progress from savagery, through barbarism to civilization*. (青山道夫訳, 1958-1961, 『古代社会』上下、岩波文庫)

Morgan, L.H., 1881, *Houses and House-Life of the American Aborigines*. (古代社会研究会訳・上田篤監修, 1990, 『アメリカ先住民のすまい』岩波文庫)

広松渉, 1968, 『エンゲルス論』盛田書店

第二部 科学と意志

19世紀末から20世紀にかけて、それまでの総合社会（科）学を受けて、それらをさらに科学化しようとする動きが起こる。

しかし、そのことをつうじて、同時に、社会学あるいは社会研究の対象は社会であり、それ自体文化的な世界であるばかりでなく、意志を持つ人間によって構成されているところから、自然と同じやり方でそれを捉えることはできない、という議論が高まってくる。

意志を持つ人間によって構成されている社会のとらえ方をめぐる論議は、やがてその危機に対処し、それを変革するのにも人間の意志にほかならない、という議論へと高まっていく。

VI 科学としての社会学：デュルケムを中心に

1 コント以後のフランス社会学

生物学的社会学：フイエとエスピナス

心理学主義：タルド←ヘーゲルとクルノー

発明と模倣：論理的模倣、超論理的模倣、模倣という社会化、社会心理学へ

2 実証主義から合理主義へ

社会的事実を物として捉える：合理主義、社会の容積と動的密度、集合意識と集合表象

存在様式と行為様式：社会形態学と社会生理学

社会学（帝国）主義：揶揄から学問的性格へ

3 社会進化論の再構成

歴史主義から機能主義へ：新進化主義の社会理論

社会の原型：ホルドとクラン

環節的社会から有機的社会へ：機械的連帯と有機的連帯

4 社会分業論と自殺論

スペンサー批判：産業社会は単なる契約社会ではない

分業の進展と集合意識の漸次的弛緩

アノミーの概念：自己本位的、集団本位的、アノミー的自殺

5 宗教社会学から道德教育論へ

宗教の本質：聖俗の観念と教会の制度

トテミズムから近代の宗教へ：宗教と科学、総体性の問題

道德教育：教育、とくに道德教育の必要性、教育社会学の創始

6 現代的意義

社会主義との関係：フランス社会主義の歴史、ジョレースとの関係

ブルードン、ラファルグ、ゲード、ペルーティエ、ジョレース
方法論的社会主義と個人主義：新しい〈人間・社会〉関係の模索
パーソンズへの影響：社会共同体 *societal community* の観念

文献

Fouillée, A. J. É., 1966, *L'évolutionisme des idées forces*.

Espinas, A. V., 1877, *Des sociétés animales*.

Tarde, G., 1890, *Les lois de l'imitation*. (風早八十二訳, 1924, 『模倣の法則』部分訳)

Tarde, G., 1898, *Les lois sociales: esquisse d'une sociologie*. (小林珍雄訳, 1943, 『社会法則』)

Tarde, G., 1901, *L'opinion et la foule*. (稲葉三千男訳, 1964, 『世論と群集』新装版 1989)

Durkheim, E., 1893, *De la division du travail social: étude sur l'organisation des sociétés supérieures*, (田原音和訳, 1971, 『社会分業論』青木書店、井伊玄太郎訳, 1957, 『社会的分業論』理想社、山崎早市訳, 1935-37, 『社会分業論 上下』春秋社)

Durkheim, E., 1895, *Les règles de la méthode sociologique*, P.U.F., 1968. (宮島喬訳, 1978, 『社会学的方法の基準』岩波文庫)

Durkheim, E., 1897, *Le Suicide: étude de sociologie*, nouvelle ed., P.U.F., 1960. (宮島喬訳, 1968, 『自殺論』世界の名著 47、中央公論社、中公文庫, 1985, 鈴木宗忠・桑沢謙一訳, 1927, 『自殺論』宝文館)

Durkheim, E., 1912, *Les formes élémentaires de la vie religieuse: le système totémique en Australie*, 1912, P.U.F., 1960 (吉野清人訳, 1975, 『宗教生活の原初形態』岩波文庫)

Durkheim, E., 1922, *Éducation et sociologie*. (佐々木交賢訳, 1967, 『教育と社会学』誠信書房)

Durkheim, E., 1924, *Sociologie et philosophie*. (山田吉彦訳, 1943, 『社会学と哲学』創元社、佐々木交賢訳, 1985, 『社会学と哲学』恒星社厚生閣)

Durkheim, E., 1925, *L'éducation morale*. (麻生誠・山村賢明訳, 1964, 『道德教育論上・下』明治図書)

Durkheim, E., 1928, *Le socialisme: sa définition, ses début, la doctrine Saint-Simonienne*. (平山高次訳, 1952, 『社会主義の定義』創元社、森博訳, 1977, 『社会主義及びサンシモン』恒星社厚生閣)

Durkheim, E., 1950, *Leçons de sociologie, physique des moeurs et du droit*. (宮島喬・川喜多喬訳, 1974, 『社会学講義』みすず書房)

Durkheim, E., 1953, *Montesquieu et Rousseau*.

Durkheim, E., 1955, *Pragmatisme et sociologie*. (福鎌忠恕・福鎌達夫訳, 1978, 『プラグマティズムと社会学』関書院)

Durkheim, E., 1975, *Textes*, 3 vols

Smith, A. D., 1973, *The Concept of Social Change: a critique of the functionalist theory of social change*, Routledge.

Lichtheim, G., 1970, *A Short History of Socialism*, Praeger. (庄司興吉訳, 1979, 『社会主義小史』みすず書房)

Lafargue, P., 1880, *Le droit à la paresse*, 1970, Maspero. (田渕晋也訳, 1972, 『怠ける権利』人文書院)。

宮島喬, 1977, 『デュルケム社会理論の研究』東京大学出版会

Ⅶ 実証主義と社会主義：フェビアン主義の理論と実践を中心に

1 スペンサー以後のイギリス社会学

都市・貧困研究：ブースとロウンツリー

アカデミー社会学：ホブハウス、ウェスタマーク、ギンスバーグ

貧困か？：むしろ社会主義を見る必要

2 イギリス社会主義の形成

リカード派社会主義とミルの役割：実証主義者たち

デヴィッドソン、ハインドマン、ヘンリー・ジョージ

社会民主連合、社会主義者同盟、フェビアン協会

For the right moment you must wait, as Fabius did most patiently, when warring against Hannibal, though many censured his delays; but when the time comes you must strike hard, as Fabius did, or your waiting will be in vain, and fruitless.

3 初期フェビアン協会の理論形成

ショーとウィクスティード：『資本論』の導入と価値論論争

価値論から地代論へ：リカードとヘンリー・ジョージの影響

都市社会主義：「ガスと水道の社会主義」

4 ウェップ夫妻の活躍

ベアトリス・ポッター：スペンサー、ブース、フェビアン協会

シドニー・ウェップ：LSE設立、労働党指導者、大臣

協同民主主義論と社会調査の方法：ナショナル・ミニマムの考え方

5 近代政治学と大社会論

グレアム・ウォーラス：フェビアン主義から政治学へ

非合理性の認知と象徴理論：『政治における人間性』

大社会化とその克服法：大衆社会論の先駆

6 現代的意義

制度論的実態調査の方法

調査研究と政策立案：福祉国家の土台づくり

権威主義とケインズ主義との連動：産業主義？

文献

Booth, C., 1892-97, *Life and Labour of the People in London*, 9 vols..

Rowntree, B. S., 1901, *Poverty: a study of town life*.

Rowntree, B. S., 1941, *Poverty and Progress: a second social survey of York*.

Hobhouse, L. T., 1911, *Liberalism*. (清水金次郎訳, 1946, 『自由主義』三一書房)
 Hobhouse, L. T., 1924, *Social Development*.
 Westermarck, E. A., 1926, *A Short History of Marriage*. (中村正雄訳, 1956, 『人間の結婚の歴史』創文社)
 Ginsberg, M., 1921, *The Psychology of Society*. (小面孝作訳, 1937, 『社会心理学』刀江書院)
 Ginsberg, M., 1921, *Sociology*. (川崎恵璋訳, 1955, 『社会学』関書院)

Mill, J. S., 1843, *A System of Logic*, 6 books in 2 vols, London: John W. Parker, West Strand. (大関將一訳, 1949-59, 『論理学体系』春秋社)

George, H., 1879, *Progress and Poverty*. (山寄義三郎訳, 1991, 『進歩と貧困』日本経済評論社、長洲一二譯, 1949, 『進歩と貧困』日本評論社、世界古典文庫 66) .

Morris, W., 1891, *News from Nowhere*. (松村達雄訳, 1968, 『ユートピアだより』岩波文庫)

Shaw, G. B., ed., 1889, *Fabian Essays in Socialism*, London: Fabian Society.
 Shaw, G. B., 1900, *Fabianism and the Empire*
 Shaw, G. B., 1903, *Man and Superman* (市川丈彦訳, 1929, 『人と超人』岩波文庫)
 Shaw, G. B., 1928, *Intelligent Woman's Guide to Socialism and Capitalism*
 Webb, B., 1891, *The Co-operative Movement in Great Britain* (久留間鮫造訳『消費組合発達史論』1921, 大原社会問題研究所, 1926, 同人社)
 Webb, S. & B., 1894, *The History of Trade Unionism* rev.ed., 1920 (荒畑勝三・山川均訳, 1920, 『労働組合運動史』叢文閣、荒畑寒村訳、2巻, 1949, 板垣書店)
 Webb, S. & B., 1897, *Industrial Democracy*, new ed., 1920 (高野光三郎監訳, 1927『産業民主制論』同人社、復刻版, 1969, 法政大学出版局)
 Webb, S. & B., 1920, *A Constitution for the Socialist Common Wealth of Great Britain*. (大原社会問題研究所訳, 1948, 『大英社会主義国の構成』第一出版、岡本秀昭訳, 1979, 『大英社会主義社会の構成』木鐸社)
 Webb, S. & B., 1921, *The Consumer's Co-operative Movement*. (山村喬監訳, 1925, 『消費組合運動』同人社)
 Webb, S. & B., 1921, *The Prevention of Destitution*, London & New York.
 Webb, S. & B., 1923, *The Decay of Capitalist Civilization*. (安部磯雄訳, 1924, 『資本主義文明の凋落』明善社)
Webb, S. & B., 1932, *The Method of Social Study*. (川喜多喬訳, 『社会調査の方法』東京大学出版会)
 Webb, S. & B., 1935, *Soviet Communism: a new civilization?* (木村定・立木康男訳, 1952-53, 『ソヴェト・コミュニズムー新しい文明』みすず書房)

Wallas, G., 1908, *Human Nature in Politics*, 3rd ed., 1924. (石上良平・川口浩訳, 1955, 『政治における人間性』創文社)

Wallas, G., 1914, *The Great Society: a psychological analysis*. (大島居章三, 1921, 『社会の心理的解剖』大日本文明協会)

Bevaridge, W. H., 1942, *Social Insurance and Allied Services*. (山田雄三監訳, 1969, 『社会保険および関連サービス』)

VIII 社会学と意志の問題：テンニースとジンメルを中心に

1 ドイツの社会学

ローレンツ・フォン・シュタイン：国家科学と社会理論
グンプロヴィッチ：種族闘争と社会学的国家論
ラッツェンホーファー：関心と文化国家

2 新カント哲学と生の哲学

認識論から価値論へ：構成主義とその背後
生の哲学：ヘーゲルとショペンハウアー
意志、解釈、現象：ニーチェ、ディルタイ、フッサール

3 意志と社会形成：テンニース

歴史主義と合理主義を媒介するものとしての意志
グマインシャフトとゲゼルシャフト：共産主義と社会主義、ギールケとマルクス
社会契約とゲノッセンシャフト

4 社会分化論：ジンメル（1）

社会と個人：過去と現在
機械的結合と目的結合
社会的分化：社会化

5 社会化の形式の学としての社会学：ジンメル（2）

社会化の諸形式：純粹社会学
支配、闘争、社会圏、貧困層、社会集団、空間、集団の拡大と個性の発達
社会学の構成と社会主義批判：社会と個人、社交性、個人主義の分化

6 影響関係と現代的意味

ジンメル以後の現象学的社会学と形式社会学：フィアカントとヴィーゼ
ニーチェとジンメルのウェーバーへの影響：意志、カリスマ、社会的行為
パーソンズへの影響：対象準拠から意図準拠へ

文献

Stein, L. von, 1842, *Der Sozialismus und Communismus des heutigen Frankreichs*, 1850, 3. Aufl.: *Die Geschichte der sozialen Bewegung in Frankreich von 1789 bis auf unsere Tage*, 3 Bde., herausgegeben von G. Salomon, 3 Bde., 1921. [前著を第二卷に含む] (猪木正道訳, 1949, 『社会の概念と運動法則』みすず書房、五十嵐豊作, 1949, 『社会の概念とその運動法則』実業之日本社、いずれも序論の訳)

Stein, L. von, 1852-56, *Das System der Staatswissenschaft*, 2 Bde., 2. Bd., *Die Gesellschaftslehre*,

1856.

Gumplowicz, L., 1875, *Rasse und Staat*.

Gumplowicz, L., 1885, *Grundriss der Soziologie*, 2.Aufl., 1905..

Ratzehofer, G, 1898, *Die soziologische Erkenntnis*. (宮崎市八訳述, 1924, 『社会学的認識論』社会哲学新学説体系(2)、新潮社)

Schopenhauer, A., 1819-44, *Die Welt als Wille und Vorstellung*, 2Bde.. (岡本信二郎訳, 19??, 『意志と表象としての世界』岩波文庫、ほかにも単行本あり)。

Nietzsche, F. W., 1872, *Die Geburt der Tragödie*. (秋山英夫訳, 1966, 『悲劇の誕生』岩波文庫)

Nietzsche, F. W., 1908, *Ecce Homo*. (手塚富雄訳, 1969, 『この人を見よ』岩波文庫)

Nietzsche, F. W., 1908, *Also sprach Zarathustra*. (竹山道雄訳, 1953, 『ツアラトストラかく語りき』新潮文庫)

Dilthey, W., 1911, „Die Typen der Weltanschauung und ihre Ausbildung in den metaphysischen Systemen“, *Weltanschauung, Philosophie und Religion*, Verlag Reichl. (山本英一訳, 1980, 『世界観の研究』岩波文庫)。

Cassierer, E., 1944, *An Essay on Man: an introduction to a philosophy of human culture*, (宮城音弥訳, 1953, 『人間』岩波書店)

Tönnies, F., 1887, *Gemeinschaft und Gesellschaft: Begriffe der reinen Soziologie*, 1912, 2.Aufl., 1935, 8.Aufl. (杉之原寿一訳, 1954, 『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト：純粹社会学の基本概念』理想社, 1957, 岩波書店)

Tönnies, F., 1896, *Hobbes' Leben und Lehre*, 2. Aufl., *Thomas Hobbes: der Mann und der Denker*, 1912, 3.Aufl. 1925.

Simmel, G., 1890, *Über soziale Differenzierung: Soziologische und Psychologische Untersuchungen*, Dunker und Humblot. (居安正訳, 1969, 『現代社会学体系1 ジンメル 社会分化論 社会学』青木書店)

Simmel, G., 1900, *Philosophie des Geldes*. (居安正訳, 1978, 『貨幣の哲学』白水社、ジンメル著作集2-3)

Simmel, G., 1907, *Schopenhauer und Nietzsche*. (藤野渉訳, 1942, 『ショーペンハウアーとニーチェ』岩波文庫)

Simmel, G., 1908, *Soziologie: Untersuchungen über die Formen der Vergesellschaftung*, Dunker und Humblot, 5.Aufl. 1968. (居安正訳, 1969, 『現代社会学体系1 ジンメル 社会分化論/社会学』青木書店、部分訳)

Simmel, G., 1917, *Grundfragen der Soziologie: Individuum und Gesellschaft*, Sammlung Götschen, Berlin und Leipzig, Walter de Gruyter. (清水幾太郎訳, 1979, 『社会学の根本問題』岩波文庫)

Smith, C. W., 1979, *A Critique of Sociological Reasoning*, Basil Blackwell. (庄司興吉・武川正吾訳, 1984, 『社会学的理性批判』新曜社)

阿閉吉男, 1978, 『ジンメル社会学の方法』お茶の水書房

阿閉吉男, 1981, 『ジンメルとウェーバー』お茶の水書房

IX 社会民主主義の社会理論：資本主義と帝国主義をめぐる論争の原型

1 ドイツ社会民主主義の形成

マルクス、エンゲルスの指導

ドイツ社会民主党←社会主義労働者党←全ドイツ労働者協会と社会民主労働党
W・リープクネヒトとベーベル：史的唯物論の婦人論

2 正統派理論の形成：カウツキー（1）

人口論から出発

史的唯物論を歴史分析の方法に：社会経済状態、階級関係、政治とイデオロギー
エルフルト綱領解説：社会主義への具体的展望

3 ベルンシュタインの問題提起

エンゲルスの愛弟子、新カント主義とフェビアニズムの影響
資本蓄積論、階級両極分解論、窮乏化論などの批判
ブランキ主義の批判から弁証法と唯物論の批判へ

4 修正主義批判から帝国主義論へ：カウツキー（2）

農業問題：独占資本主義のもとでの中間層問題
ベルンシュタイン批判：倫理的要素の位置づけ、権力への道
帝国主義：独占資本の対外政策、超帝国主義の可能性

5 修正主義批判から大衆行動路線へ：ローザ・ルクセンブルグ

ポーランドにおける産業発展の研究から出発
ベルンシュタイン批判と大衆ストライキ論
資本蓄積と帝国主義の理論：現代的影響

6 第一次世界大戦と社会民主主義の挫折

1914年夏：国際主義から愛国主義へ
帝国主義をめぐる意見の不一致
より根本的には、階級と民族の問題：近現代世界の構造把握の問題へ

文献

Bebel, A., 1879, *Die Frau und der Sozialismus*, 50. Aufl., 1909（草間平作訳, 1928-29, 『婦人論 上下』岩波文庫、1952-55）

Kautsky, K. J., 1880, *Der Einfluss der Volksvermehrung auf den Fortschritt der Gesellschaft*.（社会の進歩に対する人口増加の影響）

Kautsky, K. J., 1888, *Thomas More und seine Utopie*.（渡辺義晴訳, 1969, 『トマス・

モアとユートピア』法政大学出版局)

Kautsky, K. J., 1889, *Die Klassengegensätze von 1789, 1908, als Die Klassengegensätze in Zeitalter der französischen Revolution*. (堀江英一・山田和男訳, 1954, 『フランス革命時代における階級対立』岩波文庫)

Kautsky, K. J., 1892, *Das Erfurter Programm in seinem grundsatzlichen Teil erlautert*. (三輪寿壯訳, 1930, 『エルフルト綱領解説』改造文庫、都留大治郎訳, 1955, 『エルフルト綱領解説』河出書房・世界大思想全集)

Kautsky, K. J., 1899, *Die Agrarfrage: ein Übersicht über die Tendenzen der modernen Landwirtschaft und die Agrarpolitik der Sozialdemokratie*. (向坂逸郎訳, 1946, 『農業問題』岩波文庫、山崎春成・崎山耕作訳, 1955, 『農業問題』国民文庫)

Kautsky, K. J., 1899, *Bernstein und das sozialdemokratische Programm*. (山川均訳, 1928, 『マルクス主義修正の駁論』春秋社、世界大思想全集 47)

Kautsky, K. J., 1906, *Ethik und materialistische Geshichtsauffassung*. (堺利彦訳, 『倫理と唯物史観』改造文庫)

Kautsky, K. J., 1909, *Der Weg zur Macht*. (奥田八二訳, 1955, 『権力への道』世界大思想全集、社会宗教科学思想編 第14巻、河出書房)

Kautsky, K. J., 1913-14, „Der Imperialismus“ *Neue Zeit* Jg.32, Bd.II. (波多野真訳, 1953, 『帝国主義論』創元文庫)

Bernstein, E., 1899-1920, *Die Voraussetzungen des Sozialismus und die Aufgaben der Sozialdemokratie*, neue Ausg., 1920. (戸原四郎訳, 1960, 『社会主義の前提と社会民主党の任務』河出書房、世界大思想全集 15、佐瀬昌盛訳, 1984, 『社会主義の諸前提と社会民主主義の任務』ダイヤモンド社)

Luxemburg, R., 1899, *Sozialreform oder Revolution?* (喜安朗訳, 1963, 『社会改良か革命か』現代思想社、選集1)

Luxemburg, R., 1906, *Massenstreik, Partei und Gewerkschaften*. (河野信子・谷川雁訳, 1962, 『大衆ストライキ、党および労働組合』現代思想社、選書2)

Luxemburg, R., 1913, *Akkumulation des Kapitals: ein Beitrage zur ökonomischen Erklärung des Imperialismus*, 4. Aufl., 1970, Verlag Neue Kritik. (長谷部文雄訳, 1934, 『資本蓄積論』岩波文庫、改訳版、青木文庫, 1952, 高山洋吉訳, 1952, 『資本蓄積論』三笠文庫)

Luxemburg, R., 1922, *Die russische Revolution : Eine kritische Würdigung*. (清水幾太郎訳, 1962, 『ロシア革命論』選集 第4巻)

清水幾太郎, 1966, 『現代思想』岩波書店。

X 合理化と変革主体の理論：M・ウェーバーを中心に

1 世紀末ドイツの思想と社会

新しい哲学、意志の社会学、社会民主主義

歴史学派と講壇社会主義

ドイツ社会の危機：ユンカー、ブルジュワジー、プロレタリアート

2 宗教社会学の形成

個人的事情：家系と闘病生活

プロテスタンティズムの意義：解放説と禁欲説

合理化史観と産業主義的諦観

3 合理化とカリスマ革命

支配の正統性：伝統的、合法的、カリスマ的

カリスマ革命とカリスマの日常化

官僚性の理論

4 理解社会学と行為理論の構築

行為と意図：主意主義と理解社会学の形成

行為の類型：目的合理的、価値合理的、感情的、伝統的

正統的秩序：支配の理論への接続

5 理念型構成と価値自由

科学的認識と価値判断

理念型構成における価値判断の二重性

因果性と適合的連関 *die adäquate Beziehung*

6 個人主義的主意主義の意義

ウェーバー行為理論の意義：意図準拠性の自覚化

ウェーバー歴史理論の意義：自然史と社会史の相同性と相異性

実践者としてのウェーバー：ドイツ・ナショナリズムと西欧の運命

文献

List, F., 1841, *Das nationale System der politischen Ökonomie*, 1982, Akademie Verlag. (小林昇訳, 1970, 『経済学の国民的体系』岩波書店)

Roscher, W. F., 1843, *Grundriss zu Vorlesungen über die Staatswissenschaft nach geschichtlicher Methode*. (山田雄三訳, 19??, 『歴史的方法による国家経済学講義要綱』岩波文庫)

Menger, C., 1883, *Untersuchungen über die Methode der Sozialwissenschaften und der politischen Ökonomie insbesondere*. (福井孝治・吉田昇三訳, 19??, 『経済学の方法

に関する研究』岩波文庫)

Sombart, W., 1902, *Der moderne Kapitalismus*, 2 Bde., 2. Aufl. 3 Bde 1916-27 (岡崎次郎訳, 1942-43, 『近世資本主義』第1巻、1, 2分冊、生活社、[第1巻の訳]、梶山力訳, 1940, 『高度資本主義』有斐閣、[第3巻の訳])

Weber, M., 1904-05, *Die protestantische Ethik und der "Geist" des Kapitalismus, Gesammelte Aufsätze zur Religionssoziologie, Bd.I*, 1920 (梶山力・大塚久雄訳, 1955-62, 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店)

Weber, M., 1920-21, , 5. Aufl., 1963, 3Bd., J. C. B. Mohr (部分訳、大塚久雄・生松敬三訳, 1972, 『宗教社会学論選』みすず書房、木全徳雄訳, 1971, 『儒教と道教』創文社、深沢宏訳, 1983, 『ヒンドゥー教と仏教』日貿出版社、内田芳明訳, 1962, 64, 『古代ユダヤ教』1・2 みすず書房)

Weber, M., 1921, *Gesammelte Politische Schriften*, Zweite, erweiterte Aufl., J.C.B. Mohr, 1958. (中村貞二・山田高生・林道義・嘉目克彦・脇圭平訳, 1982, 『政治論集』1, 2, みすず書房)

Weber, M., 1921-22, *Wirtschaft und Gesellschaft*, 4. Aufl., 2 Bde., 1956, 5. Aufl., 1972 (清水幾太郎訳, 1972, 『社会学の根本概念』岩波文庫、世良晃志朗訳, 1960, 62, 64, 70, 74, 『支配の諸類型』『法社会学』『支配の社会学』1・2 『都市の類型学』創文社、富永健一訳, 1975, 『経済行為の社会学的基礎範疇』中央公論社、厚東洋輔訳, 1975, 『経済と社会集団』中央公論社、武藤一雄・藺田宗人・藺田担訳, 1976, 『宗教社会学』創文社、濱島朗訳, 1954, 『権力と支配』みすず書房、安藤英治・池宮英才・角倉一郎訳, 1967, 『音楽社会学』創文社)

Weber, M., 1922, *Gesammelte Aufsätze zur Wissenschaftslehre*, 2. Aufl., 1951, 3. Aufl., J.C.B. Mohr, 1968 (松井秀親訳, 1955, 56, 『ロッシヤーとクニース』1・2 未来社、富永祐治・立野保男訳, 1936, 『社会科学方法論』岩波文庫、林道義訳, 1968, 『理解社会学のカテゴリー』岩波文庫、松代和郎訳, 1976, 『社会学および経済学の価値自由の意味』創文社、尾高邦雄訳, 1936, 『職業としての学問』岩波文庫)

Weber, M., 1923, *Wirtschaftsgeschichte, Aus den nachgelassenen Vorlesungen* (黒正厳・青山秀夫訳, 1954-55, 『一般社会経済史要論』岩波書店)

Weber, M., 1924, *Gesammelte Aufsätze zur Sozial- und Wirtschaftsgeschichte*. (山口和男訳, 1959, 『農業労働制度』未来社、渡辺金一・弓削達訳, 1959, 『古代社会経済史：古代農業事情』東洋経済新報社)

Weber, M., 1924, *Gesammelte Aufsätze zur Soziologie und Sozialpolitik*. (中村貞二・柴田国弘訳, 1959, 『取引所』未来社、鼓肇雄訳, 1975, 『工業労働調査論』日本労働協会、濱島朗訳, 1980, 『社会主義』講談社学術文庫)

Weber, Marianne, 1926, *Max Weber : ein Lebensbild*, 3. Aufl., unveränderter Nachdruck der 1. Aufl., erg. um Register und Verzeichnisse von Max Weber-Schafer. Mohr, 1984 (大久保和郎訳, 1963, 『マックス・ウェーバー』1, 2, みすず書房)

Giddens, A., 1972, *Politics and Sociology in the Thought of Max Weber*, Macmillan. (光野弘一訳, 1988, 『ウェーバーの思想における政治と社会学』未来社)。

Zaret, D., 1980, "From Weber to Parsons and Schutz: the eclipse of history in modern social theory", *American Journal of Sociology* 85-5.

Smith, C.W., 1979, *A Critique of Sociological Reasoning*, Basil Blackwell. (庄司興吉・武川正吾訳, 1984, 『社会学的理性批判』新曜社)

Langton, J., 1979, "Darwinism and the Behavioral Theory of Sociocultural Evolution: an analysis", *American Journal of Sociology* 85-2.

XI 章と XII 章（社会理論の探求Ⅱへ）の授業は 7 月 20 日です。

XI 個人主義的自由主義と社会心理学

1 アメリカ社会形成の 2 つの原理

個人主義的自由主義：西欧近代主義の純粹培養
白人中心の人種主義：西欧中心的近代化の裏面
トックヴィルとミュルダール：2 つの古典的アメリカ研究

2 心理主義と文化主義：総合社会学のアメリカ化

サムナー：民習とモーレス、内集団と外集団、エスノセントリズム
ウォード：純粹社会学と応用社会学、社会静学と社会動学、知性の平等化
クーリーからオグバーンへ：心理学的社会学と文化社会学

3 経験主義と改革主義：シカゴ学派の形成

トマスとズナニエツキ：ポーランド農民の実証的研究
パーク：西欧社会学の変革、集合行動論、人間生態学
バージェスとワース：都市の同心円理論、都市的生活様式、人種・民族問題の研究

4 プラグマティズムの形成と社会心理学

パース：プラグマティズムと記号論の創始者
ジェームズ：存在の工場としての行為、習慣の束としての人間、意志
デューイ：概念道具説、社会心理学の大成、習慣、衝動、知性、熟慮

5 社会行動主義から象徴的相互行為主義へ：G・H・ミード

社会行動主義からみた精神：身振り、意味、象徴(symbols)
自我と社会：一般化された他者、アイとミー、一般化された社会的態度、制度
象徴的相互行為主義へ：コミュニケーションの意義、話想宇宙、言語の問題

6 社会心理学的近代主義の意義

人間的自然の概念：人間と社会の無限の可塑性
連続的世界観：人と環境の相互作用としての状況
プラグマティズムとマルクス主義：言語と労働、教育と革命

Human Nature	ökonomische Gesellschaftsformation
↓	↓
社会心理学	社会経済学
↓	↓
言語 sign-behavior	労働 tool-behavior
↓	↓

象徴的相互行為主義

↓

人間的自然の無限の可塑性

↓

教育による社会改革

疎外論＋物象化論

↓

経済的社会構成体の前進的諸段階

↓

政治による社会革命

文献

Tocqueville, A. de., 1835-40, *De la démocratie en Amérique*, 2 vols. (井伊玄太郎訳, 1987, 『アメリカの民主政治』講談社学術文庫 上中下)

Myrdal, K. G., 1944, *An American Dilemma: The Negro Problem and Modern Democracy*, 2 vols, Harper.

Summer, W. G., 1907, *Folkways: a study of the social importance of usages, manners, customs, mores and morals*. (青柳清孝他訳, 1975, 『フォーク ウエイズ』青木書店)

Ward, L. F., 1883, *Dynamic Sociology*, 2 vols.

Cooley, C. H., 1909, *Social Organization: a study of the largest mind*. (大橋幸・菊池重代志訳, 1970, 『社会組織論：拡大する意識の研究』青木書店)

Ogburn, W. F., 1922, *Social Change, with respect to culture and original nature*, new ed. 1950. (雨宮庸蔵・伊藤安二訳, 1944, 『社会変化論』育英書院)

Thomas, W. I. & Znaniecki, F. W., 1918, *The Polish Peasant in Europe and America*, 5 vols., 1918-20, 2nd ed. 2 vols., 1929. (桜井厚訳, 1983, 『生活史の社会学：ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』御茶の水書房、部分訳)

Park, R. E. & Burgess, E. W., 1921, *Introduction to the Science of Sociology*.

Park, R. E., Burgess, E. W., McKenzie, R. D., 1925, *The City*. (大道安二郎・倉田和四生訳, 1972, 『都市：人間生態学とコミュニティ論』鹿島出版会)

Wirth, L., 1928, *The Ghetto*. (今野敏彦訳, 1981, 『ゲットー：ユダヤ人と疎外社会』マルジュ社)

Wirth, L., 1937, *Our Cities: their role in the national economy*.

Wirth, L., 1938, "Urbanism as a Way of Life", *American Journal of Sociology*, 44. (高橋勇悦訳, 1978, 「生活様式としてのアーバニズム」鈴木広編『都市化の社会学』増補版)

Peirce, C. S., *Collected Papers of Charles Sauters Peirce*, 8 vols. (上山春平著作集, 1980, 『パース 世界の名著 59』中央公論社 米盛・内田・遠藤訳, 1987, 『パース著作集 1-3』勁草書房)

James, W., 1907, *Pragmatism: a new name for some old ways of thinking*. (梶田啓三郎訳, 1957, 『プラグマティズム』岩波文庫)

James, W., 1890, *The Principles of Psychology*, 2 vols. (大坪重明訳, 1960, 『心理学について』日本教文社)

Dewey, J., 1910, *How to think*. (樋田清訳, 1950, 『思考の方法』春秋社)

Dewey, J., 1922, *Human Nature and Conduct: an introduction to social psychology*. (東宮隆訳, 1951, 『人間性と行為』春秋社)

Mead, G. H., ed. by C. W. Morris, 1934, *Mind, Self and Society: from the standpoint of a social behaviorist*. (稲葉三千男・滝沢正樹・中野収訳, 1973, 『精神・自我・社会』青木書店)

Blumer, H., 1969, *Symbolic Interactionism: perspective and method*, Prentice-Hall. (後藤将之訳, 1991, 『シンボリック相互作用論』勁草書房)

Blumer, H., 1990, *Industrialization as an Agent of Social Change*, Walter de Gruyter. (片桐雅隆他訳, 1995, 『産業化論再考』勁草書房)